

「平成30年度WLB推進交流会を開催しました」

- ◇ 開催日 平成30年11月24日(土)
- ◇ 会場 大分県看護研修会館 3階大研修室
- ◇ 参加人数 71名(28施設)



講演

「病院で働く看護職の賃金モデルについて」日本看護協会提案
—専門職としてキャリアを高められ、
やりがいや充実感を持って働き続けられるために—

公益社団法人日本看護協会労働政策部看護労働課
調査研究・看護労働分野担当
専門職 岡戸 順一 先生



アンケート結果

- ◆ アンケート配布 57名(委員・協会参加者は含まない)
- ◆ 回収状況 回収 49名(回収率:85.9%)
(内訳 看護管理者35名・看護職12名・事務関係者2名)

◇交流会参加者は初めての参加が57.1%、過去にも参加が42.9%、講演は53%がとても役にたった、グループワークは60%の方がとてもよかったと好評であった。

◆講演やグループワークで参考になったことや取り組みに活かしたいこと◆

- ・役職手当の他に役割を果たしている職員へのプラスポイントを検討できればいいと思った。長く責任をもって働くモチベーションの維持と将来管理職としての後継者にもつながるのではないかと考えた。
- ・等級を細かく設定し、上がっていく仕組みを作る事は、モチベーション向上につながる事がわかった。
- ・ラダー評価が給与に反映される仕組みは、看護の質を向上させることができると思った。
- ・能力や勤務できる時間の差に対して、ポイントをつけボーナスに反映される制度を導入したい。
- ・60歳をすぎても給料カットしないなど、定年をすぎてもモチベーションをさげない働き方でキャリアをいかすことが出来ると思った。
- ・夜勤専従者の待遇・有給休暇の取得状況・リフレッシュ休暇への対応・人事考課・評価者の教育研修など各施設の取り組みを聞く機会となり参考になった。
- ・人事評価制度は導入しているが、実際には賃金との連動はしていない現状。すべてのナースが専門職として賃金においても意識を持つことが大切だと思った。

推進交流会の様子

